

高齢者政策を強化、子育てや障がい福祉も推進！

古賀市長

田辺かずき 市政報告

オール古賀を実践！
まちづくり推進中！

県市通算第61号
(市政第7号)

2021年5月発行

＜田辺かずき事務所＞
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール : challenge@
tanabe-kazuki.jp

【2～4面もあります！】
■今年度当初予算が成立
■チルドレンファースト
■ビエトロ新規地協定

包括支援センターを3カ所増設 ソーシャルワーカーの配置も

古賀市は2021年度、高齢者福祉の政策を強化しました。超高齢社会に対応するため、市内で1カ所だった地域包括支援センターを中学校区ごとに新設し、3カ所増やしました。それぞれに保健師や社会福祉士、ケアマネジャー

などの専門職を配置。市民の皆さんにとっては相談窓口が身近になり、個別の状況に応じたきめ細かな支援につながります。市として従来からサンコスモ古賀に設置、直営していたセンターを「基幹型」に位置

付け、3つの中学校区ごとに新設するセンター（民間委託）を統括し、「1+3」の体制で市内全域の高齢者を支えます。古賀中学校区を「第1」として福岡聖恵病院（鹿部482）▽古賀北中学校区を「第2」として千鳥苑（千鳥3・3・1）▽古賀東中学校区を「第3」として地域の住宅（青柳町215・1・2号）。介

護予防や日常生活の支援、在宅介護の総合相談、入院退院における関係機関の連携などでニーズにしっかりと応えていきます。さらに、古賀市は今年度、高齢者だけでなく、子ども・子育てや障がい、経済的困窮など複雑化・多様化する地域課題を解決していくため、どのような相談も断らない「包括的な相談支援体制」も構築しました。福祉課に総合相談窓口を設け、マネジメントの担当職員を配置。3中学校区ごとに

コミュニティソーシャルワーカーを置き、地域の皆さんとの連携を図り、個別課題の早期把握と支援、行政など関係機関へのつなぎなどを行います。なお、私は市長選の公約に「地域課題の解決のため、ソーシャルワーカーの任用を含む、包括的な相談支援体制の構築を進めます」との内容を盛り込んでいました。地域福祉をしっかりと推進していきます。

などの分野における迅速な情報伝達は重要です。一方、デジタル化を推進するうえで、デジタル・デバインド（情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差）の解消が求められます。このため、古賀市はスマートフォンなどデジタル機器を利用するための講習会の開催などの支援策を展開します。なお、古賀市は今年度「デジタル推進課」を立ち上げ、行政運営全般における推進体制を整えています。



古賀市の魅力を全国に発信中！！

J:COMさんの番組「つながるニッポン！！」応援のチカラで古賀市が特集されました。MCはフリーアナウンサーの中井美穂さん、ゲストはタレントの榎原郁恵さん。筵内の菜の花や大根川沿いの桜をPR。中学・高校の「制服リユース」と全ての初産婦さんに直接アプローチして支援する「くるサポ訪問」などのチルドレンファーストの取り組み、古賀市ブランドの「焦がし商品」の魅力もお伝えしました。

全国の二十数人の首長有志や松任谷正隆さん、小山薫堂さんなど各界の皆さんでつくる「みんなの応援村」のプロジェクトの一環で、私も実行委員を務めています。新型コロナウイルスや頻発する災害で厳しい社会状況にある中、子どもたちや頑張っている人たちを応援し、「日本を元気にしよう！」という輪を広げています。

度、高齢者だけでなく、子ども・子育てや障がい、経済的困窮など複雑化・多様化する地域課題を解決していくため、どのような相談も断らない「包括的な相談支援体制」も構築しました。福祉課に総合相談窓口を設け、マネジメントの担当職員を配置。3中学校区ごとに

高齢者のデジタル格差解消で支援策

市民サービスの向上のため、行政のデジタル化は避けて通れません。特に防災や福祉、子育て



紙ベースの報告書ではまちづくりのすべてを伝えることはできません。私のFacebookやTwitter、インスタグラム、LINEといったSNS、ブログ、古賀市HPなどでは、連日、様々な市政の動きを発信していますので、これらをフォローし、チェックしていただけると幸いです。こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます。

こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます



2021年度当初予算 — 古賀駅周辺開発が進展、移住定住や起業促進！



JR古賀駅周辺活性化

東口⇒「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の空間形成
西口⇒持続的・発展的にぎわい創出を図る



移住・定住・起業促進

サテライトオフィス等におけるテレワークの推進、インキュベーションの促進、中小企業の創業に対する補助



新規・女性就農者支援

新規就農希望者へ農地を斡旋し農地や放棄地を有効活用。クラウドファンディングで資金確保し支援の輪を拡大



出産前後の家事育児支援

出産前後の家事・育児支援が必要な家庭にヘルパーを派遣し、子どもを産み育てやすい環境を整備



子ども医療費助成拡大

子ども医療費支給制度で、通院分の助成対象を中学生まで拡大。子育て世帯の経済的負担の軽減を図る



新型コロナワクチン接種

新型コロナ感染拡大防止のため、県・医療機関と連携しワクチンの接種態勢を構築し、市民へ予防接種を実施



公共交通ネットワーク再構築

地域公共交通網形成計画に基づき、市民の移動需要に適応した公共交通ネットワークの再構築



風水害適応で防災力向上

地域人材育成プログラム体験会を開催。風水害適応リテラシーのある市民を増やし、ファシリテーターを養成

全事業のほんの一部です。田辺かずきのブログをはじめとする各SNSや田辺かずき事務所のfacebookで他にも詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

中心市街地活性化へ 千鳥駅東口も

「1丁目1番地」に位置付けるJR古賀駅東口エリアの開発は確実に進展させています。昨年度には有識者や関係事業者などで構成する会議をスタート。今年度中に基盤となる道路などの都市計画決定をめざすとともに、道路や駅前広場、公園・緑地、商業・居住ゾーンの具体的な街並みを検討し、来年度中の用途地域と地区計画の決定に向けた準備を進めていきます。

西口エリアは「本質的な再生」をめざし、宮崎県日南市の油津商店街を再生させた実績のあるプロフェッショナルの力を得て、私たち市民が主体的に関わり、ともに中心市街地のビジョンを描き、具体策を実践していく3年がかり

2021年度もコロナ禍は続きます。私たちは、古賀市の地域特性を生かし、「産業力の強化」「子ども（チルドレンファースト）」「健康・安心」の3つを柱としたまちづくりの理念を堅持しながら、ウィズコロナ、アフターコロナも見据え、持続可能な地域社会を築いていかなければなりません。地方自治体には、これまで以上に受動的ではなく能動的に行動していくことが求められていると考えます。そして、私たちの地域に「あるもの」を起点に、様々な価値を結び付け、新たな創造につなげていくことが重要です。こうしたことを強く念頭に置き、当初予算を編成しました。

高齢者のペット飼育支援 官民連携で県内初

「一人暮らしの高齢者が急に亡くなり、家にペットが取り残されている」「ペットの面倒をみてくれる人がおらず、入院できない」——。超高齢社会となり、深刻な問題として浮上しているのが高齢者のペットの飼育。高齢者福祉行政と犬や猫を扱う環境行政との部門を越えた行政の連携や、介護事業者との官民の連携、市民ボランティアとの連携を図る必要があります。そこで、古賀市は連携体制を構築し、「ペットと暮らしシニアの備えサポート」を新たに始めました。福岡県内で初めての試み。県議時代から強い問題意識を持ち、市長としての公約にも盛り込んでいました。この間、市環境課の職員が中心となり、関係者との調整を図った結果、体制が構築できました。

なお、吉田健一朗県議が県議会で古賀市への支援を要請

歩行者や自転車が行き来できる小道を整備します。

「温泉×新ビジネス」の環境を打ち出し、魅力ある働く場に企業の新たなオフィスや起業・創業者などを呼び込み、移住定住にもつなげていきます。国の「テレワーク交付金」も活用し、財源を確保します。

古賀市は国の動きに先んじて、コロナ禍におけるテレワークの普及など働き方や生き方の価値観の変容を捉え、薬王寺温泉の休業旅館の建物をリノベーションし、サテライトオフィスやシェアオフィス、コワーキングスペースなどの空間を整備する事業を進めています。「温泉×新ビジネス」の環境を打ち出し、魅力ある働く場に企業の新たなオフィスや起業・創業者などを呼び込み、移住定住にもつなげていきます。国の「テレワーク交付金」も活用し、財源を確保します。

古賀市は国の動きに先んじて、コロナ禍におけるテレワークの普及など働き方や生き方の価値観の変容を捉え、薬王寺温泉の休業旅館の建物をリノベーションし、サテライトオフィスやシェアオフィス、コワーキングスペースなどの空間を整備する事業を進めています。「温泉×新ビジネス」の環境を打ち出し、魅力ある働く場に企業の新たなオフィスや起業・創業者などを呼び込み、移住定住にもつなげていきます。国の「テレワーク交付金」も活用し、財源を確保します。

薬王寺で 「温泉×新ビジネス」

あわせて、千鳥駅東口の整備に向けても事業化の準備を進めていきます。

西鉄宮地岳線跡地の 整備推進

西鉄宮地岳線跡地について、中川区や花見南区で詳細な設計に入り、道路や遊歩道などの整備に向けて事業を進めています。今後、地元の方々の声を聴きながら設計図面の成案につなげます。また、他の地域も設計を進められるよう、引き続き対話集会で安全・安心な空間形成を説明し、最終的には私の責任で判断をしていきます。なお、未整備の区間の一部箇所について、地元のご要望を踏まえ、防災や生活利便性向上の観点から歩行者や自転車が行き来できる小道を整備します。

し、県から「国の交付金を活用し、移住者を取り込み、地域のにぎわいの拠点をめざす古賀市の取組は先進的であり、成功するよう、しっかりと古賀市を応援する。同じ取組が広がるよう、県内の他の市町村にも広く紹介していく」との答弁を得ています。県市連携を進めていきます。

チルドレンファーストで子どもたちの育ちと学びを支える

妊娠から出産・乳幼児期まで継続支援

小中学校の全学年で少人数学級

私たち先行世代の責務は、子どもたち孫たち、次の世代に私たちが享受しているよりも豊かな社会をつないでいくことだと確信しています。その意味で、子どもを中心にまちづくりをしていくことが大切であり、その推進は移住定住を促し、長期的な人口の維持にも寄与します。こうした考え方に基き、チルドレンファーストで取り組んできた古賀市の新型コロナウィルス対策も全国的に注目を集め、私への講演依頼も増えています。今年度は子育て支援をさらに強化します。妊娠期から出産、乳幼児期まで切れ目なくサポートするため、家事・育児支援が必要な家庭へのヘルパー派遣事業を開始。不妊に悩む家庭に

治療費用を助成します。また、コロナ禍の外出抑制で児童虐待のリスクが高まり、経済的困窮も深まっていることから、「子ども宅食」に取り組んでいる市内の子ども支援団体と連携して、支援が必要な家庭を訪問し、フードバンクや市内企業などからの食料を届け、見守り体制を強化します。

「待機児童ゼロ」をめざし、保育士の家賃補助や保育補助者の雇用への助成を拡充。新たに、子どもが幼児教育・保育の無償化の対象となっていない施設を利用する際の費用を助成します。子ども医療費支給制度の助成対象に中学生の通院医療も加えます。おたふくかぜによる重症の難聴を防ぐため、現在任意接種

であるおたふくかぜの予防接種に対して助成します。

全ての小中学校、全ての学年における原則35人以下学級をはじめとした学校現場の多様な人的配置を継続します。昨夏までに中学3年生に学習支援ソフト入りのタブレット端末を先行配布してコロナ禍での受験に向けた不安軽減と家庭学習を支援したところですが、コロナ禍の長期化を踏まえ、今年度も実施します。全ての児童生徒に配備したパソコン端末や教室の大型モニターを本格的に運用し、ICT教育を推進します。また、古賀北中学校でトイレの洋式化や多目的化を含む校舎の工事に着手します。

古賀市独自の新型コロナウィルス対策を展開中！

◎抗原検査キットを独自導入 福祉施設の事業継続を支援

新型コロナウィルスのクラスター発生抑制と福祉事業者等の事業継続支援の観点から、高精度の抗原検査キットを市独自に備蓄し、陽性者が確認された保育所・幼稚園や高齢者施設、障がい者施設などに無料配布して無症状者のスクリーニングに活用する取り組みを始めました。

抗原検査キットは今年1月に厚生労働省の医薬品承認（業事承認）を受けたもので、3000人分を確保。福祉施設で陽性者が確認された場合、濃厚接触者等はPCR検査の対象となるものの、対象外の場合は検査を受けなく、自費で検査を受けることなく、無症状であっても安心して事業継続ができるよう、施設に抗原検査キットを活用します。万一陽性が確認さ

れた場合、市内の協力医療機関を紹介し、PCR検査を実施したうえで保健所にすぎません。無症状の陽性者の早期発見にもつながり、クラスターの発生抑制で感染拡大防止にも寄与すると考えています。

◎事業者支援や経済的困窮 追加の緊急対策を実施へ

事業者支援では、大手チェーン店を除く市内店舗でキャッシュレス決済（PayPay）を利用した場合に最大20%を還元するキャンペーンを7・8月に実施する予定です。昨秋以来2回目。今回は、高齢者のデジタル格差解消や非接触型社会をめざし、スマートフォンを利用を学べる出前講座や広報誌の特集といった取り組みをあわせて推進します。

また、生活困窮者の自立相談や家計相談に対応するため、自立相談支援員と家計改善支援員を増員。ひとり親や低所得世帯の生活支援として児童1人当たり5万円の支給も実施します。

◎新型コロナワクチン接種

ワクチン接種について、古賀市は医療機関の皆さんなどと連携して接種体制を整えています。4月段階で65歳以上の高齢者の皆さんには接種券などを発送し、予約の受付を開始しました。いかにせん現状ではワクチンの供給量が限られており、序盤は接種の予約そのものが極めて困難であることをご理解ください。希望するすべての人が接種できるよう、ワクチンは順次供給されるので安心してお待ちください。

なお、状況が日々変化していくので、この報告書では詳細は伝えられません。古賀市からは市HPや郵便物などで発信していますのでそれぞれご確認ください。市民の皆さんのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

政経セミナーで講演— 糟屋・古賀・福津・宗像の広域的な地域振興へ

自由民主党さんの政経セミナーで講演させていただきました。県議時代は国民民主党（民主党・民進党）に所属していましたが、自民党をはじめ他党の皆さんとも交流し、先輩方から多くの指導をいただいたことが大変光栄でした。

テーマは、糟屋郡・古賀市、福津市、宗像市の広域連携による地域振興と、新型コロナウィルスによる社会の価値観の変容に即応するまちづくり。地方自治体が主体的、能動的、積極的に行動し、東京一極集中の打破と地方分散型社会を今度こそ実現しなければならぬという強い思いをお伝えしました。また、新型コロナ対応で多忙な県の粕屋保健所に



ふるさとWishで 古賀市の魅力を発信！



「ふるさとWish」古賀市ウィークとしてKBCテレビとラジオで古賀市の魅力を発信しました。2月下旬の1週間の企画の中で、ギター侍でおなじみの波田陽区さんが古賀市役所へ。ラジオ番組「PAO~N」のコーナー「ザンネン侍道中記」に生出演し、古賀市の魅力をPRしました。最後にはバツサリと斬られました！

私と同世代の全国の女性議員ネットワーク「WOMAN SHIFT」（代表＝本目さよ台東区議）のオンライン勉強会で講師を務め、古賀市の子ども子育てを支える取り組みに共感していただきました。ほかに、福岡県女性議員ネットワークや「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク、「保育をどうしよう未来会議」でも講演し、古賀市のチルドレンファーストの取り組みを全国に発信しています。



産業力強化 — ピエトロが古賀に新工場立地へ

古賀グリーンパーク直近に「コト消費」でにぎわい創出

古賀市はドレッシングやパスタソースなどの製造・販売やレストランを展開する「ピエトロ」さまの新たな工場の建設に向けて、3月に立地協定を締結しました。古賀市の産業力強化に向けて、まちづくりの大きな転機に。多くのメディアが報道し、高い関心が寄せられています。

建設予定地は、青柳の古賀グリーンパーク（GP）の直近。農産物直売所「コスモス広場」や自然の中で憩える「ふるさと森」、多目的広場や健康文化施設「クロスパルこが」といったスポーツ施設があり、古賀市にとっての「交流の重要なエリアです。

今後、古賀GPとその周辺における「観光・物産・情報発信の拠点」形成に向けて相互に協力していきます。高橋泰行社長からは、工場にはレストランや物販の機能も設け、工場見学も視野に検討したいとの考えが示されました。体験を楽しむ経済活動「コト消費」を促し、にぎわいを創出する観点から、とても心強く思います。

私は2019年8月、古賀GP周辺のエリアに「民間活力の導入」をめざす方針を決定。庁内プロジェクトチームを立ち上げ、コト消費も含めた企業誘致を推進

してきました。私自身もトップセールスとして高橋社長とお話をさせていただいてきました。あわせて、古賀GP周辺は中心市街地である古賀駅周辺のプロジェクトとも連携させます。古賀市全体の活性化に向けて、引き続き取り組んでいきます。

浜大塚線の高架橋が開通 地下歩道は防犯カメラを

JR鹿児島本線をまたぐ浜大塚線（市道）の高架橋が開通しました。鹿部の国道495号から美明までの延長480メートルのうち高架橋部分は262メートル。頂上は地上11メートル。高架橋部分は車道で4月1日に開通。なお、歩行者用の地下歩道は今年度中に整備し、防犯カメラなども設置します。確実に工事を進めるために財源確保が重要だったため、市長就任後、地元の宮内秀樹衆議院議員にもご尽力いただき、国土交通省を訪ねて要望を重ねてきました。関係者の皆さんのご尽力に感謝し、最後まで取り組みます。

公共交通網再構築に着手 AIオンデマンドバス視察

長年の懸案である公共交通のネットワークの改善に本格的に着手します。西鉄バス古賀市内線の見直し、補完的な交通サービスの導入の可能性、公共施設等連絡バス「コガバス」のあり方などを検討していきます。

AI（人工知能）活用型オンデマンドバスの導入に向けた調査も進めてきました。宗像市の日の里地区で実証運行が始まったオンデマンドバス「のり」とについて、運行主体へのヒアリングを行い、現地も視察。従来の定時定路線のバスのように時刻表や決まった運行ルートはなく、乗りたい人がそ



れぞれ乗りたいたときにスマホのアプリや電話で予約し、それを受けたいAIがその時々での予約状況に応じて運行ルートを考えながら走りまわります。乗降場所は60地点以上、生活道路も行き来できます。予約後、数分〜10分程度でバスが現れ、利便性の高さを実感できました。総合的に検討を進め、結論を得たいと思います。

国際交流・多文化共生 多言語リーフレット作成

在住外国人の皆さんとの国際交流・多文化共生をめざす「楽しい日本語教室」が注目を集めています。ベトナム総領事、福岡県やJICAの職員さんの視察、西日本新聞の報道、さらにはKBCの夕方の報道番組「シリタカ！」も取材。防災やゴミ出し、服の買い方

「dボタン」で市政情報の発信をスタート！

今年度から市政情報の発信手法を拡大し、「dボタン広報誌」をスタートしました。KBCのデータ放送を活用。テレビのリモコンのdボタンを押すだけで手軽に市政情報にアクセスできます。平時から市民の皆さまに市政情報を伝えるとともに、特に迅速な共有が求められる災害発生時の緊急情報の発信に活用し、デジタル格差が指摘される高齢者の支援にもつなげます。市民の皆さんが主体的、能動的に情報を取りに来ていただかないと実効性が上がりませんので、ご活用をお願いします。

田辺一城（たなべ・かずき）

1980（昭和55）年5月16日生まれ。暁の星幼稚園、花鶴小学校、古賀中学校、福岡高校、慶應義塾大学法学部法律学科卒。／2003年、毎日新聞に入社し、福井支局、大阪本社社会部。／2011年から福岡県議会議員を2期務め、2018年12月に古賀市長に就任。／妻と中学3年の長男、小学5年の長女。／好きな音楽家はサザンオールスターズと椎名林檎、作家は夏目漱石と平野啓一郎、漫画家は手塚治虫。



また、市独自にこれからの時代の新たな多言語リーフレットを作成。当事者の皆さんとの対話を重ね、ニーズをつかみ、役立つ生活情報を掲載。作るプロセスも大切にして、多くの市民や団体の皆さんも一緒に取り組んでもらいました。みんなで共に生きていく社会へ。一歩一歩進んでいきます。



ピエトロと立地協定を締結、高橋泰行社長と商品を手にとる＝2021年3月12日